

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	熊高 慎二
2 期 日	2025年8月27日 ~ 2025年8月28日
3 研修先等	北海道 札幌市
4 内容(目的)	地方議会議員のなり手不足問題を考える研修に参加し、意見交換をすることで、議会改革特別委員会の議員定数や議員報酬の議論に活かす。
5 報告事項	<p>8月27日、28日の2日間、北海道札幌市において第20回全国市議会議長会研究フォーラムが開催、テーマは「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」、地方全国から2500名(応募は3000人)の議員が出席した。</p> <p>1 日目 ＜基調講演＞ 基調講演 伊吹文明元衆議院議長 テーマ「主権を預かる誇りと責任」 地方議員が直面する課題と役割については下記の通り指摘された。</p> <p>① 財源の制約 地方自治体は国の交付金や補助金に依存しており、行政運営の自由度が低い。</p> <p>② 住民との関係 議員は、個別の住民の要望と、全体の財政バランスを両立させるという難しい役割がある。</p> <p>③ 議員の処遇 老後の保障などが不十分なため、誰もが立候補できる状況ではなく、多様な人材の参入を妨げている。</p> <p>④ 議員活動 市議会とは地域を動かす1番のところである。議員に選ばれた者としての誇りを持ち、選ばれた者としての義務をもって、そして住民を説得する勇気を持って活動してほしい。</p>

### <パネルディスカッション>

テーマ「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター 辻 陽 近畿大学法学部教授

パネリスト

牧原 出 東京大学教授

白石 洋一 読売新聞東京本社政治部次長

山下 節子 山口県宇部市議会議長

長内 直也 北海道札幌市議会議長

パネルディスカッションでは、下記内容について発言があった。

無投票当選は地方議会に対する住民の無関心を表している可能性があり、立候補者が現れないのは政治家になりたいと思う人が減少していることと、議会や議員が住民に開かれていないと感じられていることが原因。

議会改革が重要で住民に身近な存在となるために、広報・広聴活動の充実が不可欠である。

政治家を志す人々の減少しているのは地方政治が割に合わない仕事になっている現状がある、政治家志望者を増やすには、議員報酬の見直しや兼業の許可など、議員が働きやすい環境を整備する必要がある。

メディアの役割も地方議会や議員の活動を積極的に報道し、住民の関心を高めることが重要である。

議会広報の課題として地方議会が情報発信に努めていても、それが住民に届いていない現状があり、メディアと連携した広報活動の必要ではないか。

議会改革の事例として宇部市議会は多様な議員が活躍できるよう、会議のオンライン化やハラスメント対策を進めている。議会運営も育児や介護と議員活動の両立を支援するため改善してきた。また、議員の兼業に関する議論も重要である。

若者や女性の議会参加を促すために、議会報告会の開催や SNS を活用した情報発信に力を入れている。住民との意見交換を通じて、議会活動への理解を深めてもらうことが、なり手不足問題の根本的な解決につながるのではないか。

### <意見交換会>

意見交換会では積極的に名刺を交換をし、特に議員定数について情報交換を行った。

2日目

<課題討議>

テーマ「地方議会議員のなり手不足問題の取り組み報告」

コーディネーター 牧瀬 稔 関東学院大学法学部地域創生学科教授

事例報告者

今井 康善 長野県岡谷市議会前議長

平神 純子 鹿児島県南さつま市議会議員

中野 進 石川県白山市議会議長

討議では下記について発言があった。

女性や若者、勤労者が議員活動に参加しやすくなるよう、議会運営の柔軟化や議員の報酬・兼業に関する議論が重要である。具体的には、オンラインでの本会議参加や、議員活動と仕事・育児・介護との両立を可能にする制度の必要。

議会改革の推進として、議会の情報公開を徹底し、住民へのアクセスを向上させるための取り組みが必要である。広報紙やSNSなどを活用した情報発信に加え、議会報告会や住民との意見交換会を積極的に開催することで、住民の関心を高めることができるのではないか。

議会の魅力向上には、地方議会がやりがいのある仕事として認識されるよう、議員活動の意義を住民に伝える努力が重要である。議会が地域課題の解決にどれだけ貢献しているかを分かりやすく示すことで、住民の信頼を獲得し、ひいては立候補者を増やすことにつながるのではないか。

地方議会だけで解決が難しい課題については、国への要望も必要である。特に、議員の兼業をより明確に認めるための法整備や、地方議員を志す若者への支援制度の創設など、全国的な課題として国も取り組む必要がある。

この研修で、議員活動を身近にする取り組み、課題解決へ貢献することで議会の存在意義を高める、そして議員と議会の環境改善し積極的に政治へ参画できるよう積極的に取り組むことが、なり手不足の解消につながるのということを学んだ。議員のなり手不足は民主主義の根幹を揺るがしかねない課題であり、日々の取り組みによって、議会がより市民に身近で、多様な人々がその能力を発揮できるやりがいのある場として認識されるよう活動をしていきたい。

議会改革に取り組み、市民にとって魅力ある議会を作るためこれからも努力していきたい。また、議会改革特別委員会での議員定数、議員報酬の議論にも参考にしたい。

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	熊高 慎二
2 期 日	2025年11月25日
3 研修先等	衆議院会館、参議院会館
4 内容(目的)	第三回定例会で採択された「芸備線をはじめとするローカル線の安定的な維持・確保に向けた国の取組を求める意見書」の実現に向け国土交通委員長をはじめ広島県選出の国会議員へ陳情・要望を行う。
5 報告事項	<p>衆議院国土交通委員会委員長、同委員、広島県選出の国会議員に、第三回定例会で採択された「芸備線をはじめとするローカル線の安定的な維持・確保に向けた国の取組を求める意見書」について陳情書の提出を行うとともに現状について説明を行い、意見書の実現に向け陳情・要望を行った。</p> <p>芸備線を活かしたまちづくりのために、どのように進めていくのが良いのか研究をしながら、陳情・要望活動を続けていきたい。</p> <p>(陳情書、面会者は別紙のとおり)</p>